



討議資料

政治にタックル! こういち 松本 浩一

ホームページ

<http://matsumotokoichi.web.fc2.com/>

災害時の防災組織づくりを考える

杉並区という都会の住宅地において安心して住む事ができ、万が一の災害でも安心して避難することができるという観点は重要です。東京都が現している第6回地域危険度測定調査結果において火災危険度や総合危険度が高い地域もあり、今号では杉並区内の各地域によって実際に災害が起きた時の組織運営を考えていきます。

☆地元消防団のフル活動を☆

災害が起こった時の、二次災害の防止、救援活動における行政と民間との連携があまり図れていないのが現状です。現在、防災市民組織を結成させ、行政と民間との連携を図る試みがされています。しかし、残念ながら装備や指揮系統など、消防団とは差があり実際の火災現場・災害現場での活躍はあまり期待できません。防災市民組織も平均年齢60歳以上というところが大半で、災害時に必要な人的資源が少ないのも現状としてあります。さらに、残念ながら訓練が十分とは言えません。この様な状態で、消火活動や災害支援に当たらせること自体、怪我などの二次災害を引き起こしてしまいます。さらに、この組織には小・中学生も含まれています。

消防団は、消防法によって火災現場において消防職員がいなくとも消火活動を行える仕組みができています。これは大きなメリットです。さらに、重要なのは情報の迅速な交換です。多くの組織体を作るということはそれだけ情報の共有や現状把握という場で迅速な行動ができなくなる可能性を秘めています。やはり、地域に密着した防災体制の構築のためには、消防団の組織運営の拡大によって、これらの防災市民組織を統合していく方が、効率的です。

災害時に重要なのは、役割分担を如何に行うかです。訓練における企業に対する人員養成、訓練の住民に対する啓蒙活動、災害の度合いや現場での役割分担できる体制を作ることで、現在の消防団の活動を効率化、機能向上を図っていくことが区民の救援に役立っていくと考えます。ただ、消防団への負担が大きくなることから、人員確保や運営体制の改善に力を入れていかなければなりません。

⇒次回は、緊急時の食料確保や災害時の避難優先順位について書かせていただきます。

Twitter

@Matsumoto_501

フォローお待ちしております！

プロフィール

◇昭和56年2月14日生

広島県出身 32歳

◇平成16年4月 早稲田大学
社会科学部入学◇早稲田大学ラグビー蹴球
部に入部。上井草のグラ
ンドで早稲田の代名詞である
「文武両道」を成し遂げるた
め精進する。◇清水建設ブルーシャークス
(当時ラグビートップイース
ト)入部◇平成20年3月 早稲田大学
社会科学部卒業◇平成20年4月 有限会社パ
イン入社。10月 常務取締役
就任◇現在 家業を行いながら、
杉並消防団第4分団団員、
杉並光友会(杉並区原爆
被爆者の会)役員、NTT日
比谷ラグビー部所属

趣味

ラグビー ラグビー試合鑑賞
ウェイトトレーニング 料理※フェイスブック、ブログも
やっています。随時更新中！